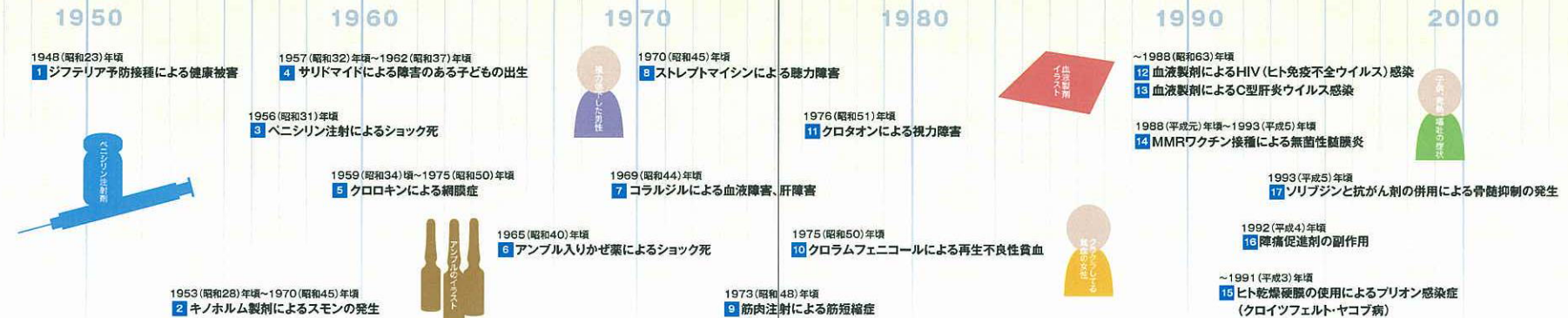


やくがい 薬害ってなんだろう？

薬は、私たちの命や健康を守るために必要なものであり、多くの人に使われています。しかし、その薬によって、これまで数々の健康被害が起きてきました。その中には、多くの方が被害を受けて社会問題となり、薬害と呼ばれているものがあります。それでは、これまでどのような問題があったのか見てみましょう。

年表



1 ジフテリア予防接種による健康被害

予防接種法に基づく義務として実施されたジフテリア(ジフテリア菌毒素によって起こる上気道の粘膜感染症)予防接種の際、無毒化が不完全なワクチンが使用されたため、多くの乳幼児が被害を受け、京都では68人が死亡し、島根でも16人が死亡したと言われています。

2 キノホルム製剤によるスモンの発生

キノホルム製剤(鎮痛剤等)を服用した人に、全身に及ぶしびれ、痛み、麻痺、視力障害などの症状が起きました。原因究明が遅れ、迅速な対応がなされなかったため、1万人を超える人が被害を受けたと言われています。

3 ペニシリン注射によるショック死

ペニシリン(抗生物質)注射を受けた人がアナフィラキシーショックと呼ばれる急激なアレルギー反応(副作用)で呼吸困難や血圧低下などを引き起こし、東大の教授が死亡する事例などが発生しました。

4 サリドマイドによる障害のある子どもの出生

サリドマイド(鎮静睡眠剤)を妊娠初期に服用した女性から手足などに障害のある子どもが次々と誕生しました。薬の販売停止・回収が迅速になされなかったため、約1,000人の子どもが被害を受けたと言われています。

5 クロロキンによる網膜症

クロロキン(抗マラリア剤)を服用した人に網膜症が生じ、視野が狭くなるなどの症状が起きました。重症の場合には、目が見えなくなることもあったと言われています。

6 アンブル入りかぜ薬によるショック死

作用の強い成分を含んだかぜ薬が、体に吸収されやすい液体タイプでアンブル(ガラス容器)に入れて市販されたため、すぐに効果が出ることを期待して服用した人に死亡事例が相次ぎました。

7 コラルジルによる血液障害、肝障害

コラルジル(狭心症や心筋梗塞など心疾患の治療薬)の服用によって、肝臓に障害が起さる人が多発しました。

8 ストレプトマイシンによる聴力障害

ストレプトマイシン(抗結核薬)の服用によって、聴覚や平衡感覚などに障害が起さる事例が発生しました。

9 筋肉注射による筋短縮症

当時は筋肉注射に関する知識が少なく、幼少時に受けた犬ももなどへの筋肉注射(抗生物質や解熱剤など)によって上手く歩けない、膝が曲がらないといった被害が発生し、約1万人の子どもが被害を受けたと言われています。

学習のポイント

point
1

自分が薬を使ったときに、どのような副作用があったかを思い出してみましょう。例えば、「薬を飲んだら眠くなった」など、そもそも薬には、病気を治す作用(主作用)以外の作用(副作用)があります。

point
2

思い出した副作用と年表の被害を比べてみましょう。薬害と呼ばれるものには、どのような特徴や共通点があるのか考えてみましょう。

10 クロラムフェニコールによる再生不良性貧血

クロラムフェニコール(抗生物質)の使用により再生不良性貧血(血液を作る骨髄の働きが低下する病気)が発生し、死亡する事例などが出ました。

11 クロタオンによる視力障害

感染症の治療、予防に使用されていたクロタオン錠(クロラムフェニコール等主成分とする複合抗生物質)の服用によって、視力障害、両足の筋肉の萎縮、神経障害(麻痺)といった被害が発生しました。

12 血液製剤によるHIV(ヒト免疫不全ウイルス)感染

血友病治療(止血、出血予防)のために使用されていた非加熱血液製剤に混入していたHIVにより感染被害が発生し、免疫力の低下やそれに伴う健康被害が発生しました。対策が遅れ、特に非加熱製剤を使用していた血友病患者約5,000人のうち約1,400人が感染し、多くの死亡者が出ました。

13 血液製剤によるC型肝炎ウイルス感染

出産や手術の際に止血剤として使用されていた血液製剤にC型肝炎ウイルスが混入していたため、C型肝炎ウイルスに感染し、慢性肝炎や肝がん・肝硬変を発生する事例が発生しました。対策が遅れ、特に製剤の投与によって約1万人の方が感染被害を受けたと言われています。

14 MMRワクチン接種による無菌性髄膜炎

予防接種法に基づく義務として実施されたはしか(M)、おたふくかぜ(M)、風しん(R)を予防する三種混合ワクチンの接種により、約1,800人の子どもが無菌性髄膜炎や脳症などを発症し、中には重篤な後遺症や死亡するといった被害も発生しました。

15 ヒト乾燥硬膜の使用によるプリオン感染症(クロイツフェルト・ヤコブ病)

脳外科手術時に病原体の混入した医療用具(ヒト乾燥硬膜)が使用されたため、クロイツフェルト・ヤコブ病(発病後数ヶ月で動けなくなり、1～2年で死亡する神経難病)を発生する事例が発生しました。有効な対策が講じられず、約100人の死亡者が出ました。

16 陣痛促進剤の副作用

陣痛促進剤(陣痛を誘発させたり、促進させたりする薬)の副作用で、胎児仮死や子宮破裂等の被害が発生しました。

17 ソリブジンと抗がん剤の併用による骨髄抑制の発生

添付文書に危険性は示されていますが、ソリブジン(帯状疱疹の治療薬)と抗がん剤の併用によって生じた副作用により、骨髄抑制による血液障害が生じ、死亡する事例が発生しました。